

# 川柳マガジンクラブ東京句会 10月

平成21年10月11日(日) 駒込学園にて

参加29名 出席23名、投句6名

水野絵扇、高田以呂波、白勢太郎、加藤品子、  
関 玉枝、河野桃葉、小野 貢、丸山芳夫、  
村田倫也、藤原栄子、小倉利江、佐道 正、  
山田こいし、南野耕平、秋山和子、浦川一平、  
真野道雄、ヨモギ、星野睦悟朗、棚瀬くんじ、  
甲野竜雄、松橋帆波、植竹団扇。  
欠席投句  
伊藤三十六、平松 健、菊地順風、山口千枝子、  
正木三路、石田きみ、

## 自由吟 句評会

バスの終点到に砦のような駅 芳夫

砦のようなという見立てが気に入りました。西部劇の砦のイメージと重なりました。帆波

何が言いたかったのか判らなかつた。倫也

終点まで乗って行く人の気持ちなのか、作者の気持ちとバスの終点の關係がよく判らなかつた。耕平

作者の方のお気持ちを聞いてみたい。一平

砦という文字を見た瞬間に、現実の風景としてクエスチ

ョンが残った。朔太郎

作者 鉄道の駅を終点としてバスが止まる時に、駅ビルなどがあるその風景が砦のように見えた。

言うまいぞ自分のプレイしてればと 貢

句の作りからすると判り難いのだが、スポーツの解説者らが「自分のプレーをして欲しい」とコメントするが自分に置き換えてみればそんなに簡単に出来ることではない。それを「言うまいぞ」とした作者の潔さを感じた。

帆波

ちよっと判り難かつたです。玉枝

作者 高校野球などの敗戦投手が口にするセリフ。「自分のプレーが出来なかつた」などと言うが、力を發揮できなかったのはそれだけの実力ということ。そのことを批判した作品です。

一週間のご無沙汰でほしいリズム 朔太郎

テレビの司会等だけでなく、生活の中のテンポ、一週間に一度いいリズムがあるというのは気持ちいいのではないですか。耕平

もう一週間経ってしまった、でも楽しかつたなという思

いで受け取りました。和子

司会者の玉置宏さんの顔を思い浮かべました。団扇

一週間は長いような気もするが短い。それに対するリズムカルな自分の気持ちが受け止められていいと思うが、何を指して一週間としているのかお聞きしたい。一平

一週間が無事過ぎたという感じかと思う。昔からある言葉を使うことに対する意見もあると思うが、この場合はいいと思う。芳夫

背景が、一週間に意味を持たせていず、ただ単に一週間という句なら面白いと思う。正

下五「いいリズム」は「よいリズム」の方がよいかと思

う。

こいし

作者 玉置宏さんのセリフに拘泥してはいない。通勤・通学の場面で、たまたま一週間ぶりに会った場面などを表現してみた。

羽根の裏なんか見せられても困る 耕平

最初意味が判らなかつたが、酒井法子事件などを想定しているのでは。睦悟朗

面白い仕立てでいいと思う。解釈はそれぞれに分かれるだろうが。利江

羽根の裏という発想。見せられても困るものとして羽根の裏を見つけたところがいい。団扇

隠しどころを見せられて困るといふ風に愚劣に解釈しました。くんじ

作者 鳥が飛んでいる時に、鳥は見せるつもりではなくても見上げる人間には見えてしまう。鳥の悲しみまで見たくないというか、酒井法子の事件にも通じるころがあるが、見せる部分、見せない部分というものが色々あるのだろうという思いで作りました。

遊びなら真面目仕事はいい加減 倫也

同じ発想をよくする。一生懸命遊ぶ。いいことだと思

う。

団扇

作者 遊びに勝るものはないと感じている。ゴルフでもマージャンでも、あのドキドキ感仕事ではとても味わえない。遊びをせんとや生まれけん。

法相が法を守るに躊躇する 健

法務大臣も人だから、死刑執行にはかなり躊躇するのは。躊躇するという表現に意味がある。以呂波

今の法務大臣は死刑反対論者なので、大臣自身が困っているのではないかと思う。今日的なテーマ。竜雄

在りし日の母の紅さすくすり指 ヨモギ

非常に綺麗な句だなと思いました。朔太郎

今の時点での句と解釈すると、自分が母の紅を使っているととなるし、在りし日の母を思い出しているという風

にも取れる。どちらでしょう。芳夫

作者 母を思い出したときに、母の姉妹が母がやっていたのを真似て薬指で紅を差す仕草を見たとき、母は女性としてはどのように生きたのだろうか、母は母でしかなかったものが女性でもあったという視点を気付き、色々な思いを込めて作りました。

イチローはガムなんかには頼らない 玉枝

子供の頃野球を見ていて、外国人選手がガムをかんでいるシーンを見てガムをかむと上手くなるのかなと思っただけのもの。でもイチローはそんなものには頼らない。逆を言ってみた目で面白い。芳夫

作者 野球はよく判らないが、選手も監督もガムをかんでいるシーンが気になる。イチローはガムをかまないし、技術も凄い。

夜の街さ迷う少年の孤独 桃葉

若き日の自分と照らし合わせて、そういうこともあったかなと、実感をして選びました。こいし

「さ迷う」で切るのだろうか。睦悟朗

作者 テレビなどではこういう少年が多く報道される。親の都合で店屋物が続くと、子供が外へ食べに言ったりすることがある。そういうところから詠みました。

天国も地獄も親も選べない 一平

子供には、悪いことをすれば地獄へ行く閻魔様がいるという話を話すけれど、幼児虐待のニュースを聞くにつけ、親も選べないのだなと思った。絵扇

自分の句とテーマが似ていると思って選んだ、今の時代を映していると思う。桃葉

素晴らしい句だと思った。豊かな子もいる反面、給食だけが食事という子もいる。三つの「も」でそれぞれの言葉が上手く結び付けられていると思う。道雄

一読して違和感があったのだが、観なさのご意見を聞いて理解できました。朔太郎

「天国」「地獄」は直接的な表現ではなくユーモアを交えた方がよいのではと感じる。川柳でこう表現されると引いてしまうと思うのだが。倫也

作者 平等の精神という割には平等ではないなという思いで詠みました。

イチローと一緒に私もニホン人 こいし

待と呼ばれているイチローを誇りに思い、自分も同じ日本人であるという事を喜んでいる作品では。利江

下五を何故カタカナ表記にしたのかお聞きしたい。睦悟朗

作者 イチロー選手の記録達成時に詠んだ。カタカナ表記については「鈴木一郎」を「イチロー」と書くので、世界のイチローにあやかかって私もカタカナの「ニホン人」になつてみようかなと思いました。

心臓にチクチク生えてきた無駄毛 団扇

人間年を取ると少しずつ心臓に毛が生えてくるのだから、自分もちよつとずつ生えているのかな、という捉え方が面白い。ただ無駄毛かなという気もするが。竜雄

私もそうなのかなと実感させられる。こいし

次点として選びました。芳夫

痛みを伴う方で理解したが、皆さんの評では毛が生える方の理解が多かった。その点が違和感が残る。品子

チクチク感がよく判らなかつた。凶々しいということとの対比がどうだろう。耕平

心臓と無駄毛が繋がらなかつた。以呂波

人に色々なことを思わせる面白い句。自戒しているのは。利江

作者 心臓に痛みがある。毛が生えてずうずうしいという意味ではなくて、心臓のチクチクした痛みを、何の役にも立たない無駄毛と表現した。

子等巢立ち名前を妻を呼んでみる 睦悟朗

だんだんみんなそうなるのだろう。二人きりになると男の方が弱くなって、名前と呼ぶようになる。面白い作品だと思ふ。竜雄

面白い。オーイなどと呼ばばエライことになる。つくづくそう思う作品。道雄

心境の変化を感じて面白い。倫也

「お母さん」や「ママ」という代名詞から、二人きりになったときに名前と呼んでみようかなという気持ち。「呼んでみる」というところに愛情を感じる。ヨモギ

そういうえば妻の名前を呼んでいないなと思った。正

定年で関白も弱くなって、奥様を名前で呼んで愛を深めていったのでは。桃葉

作者 私はちゃん付けて呼んでいます。

憲法がじつと苦痛に耐えている 三十六

具体的な内容がわからないので説明をお聞きしたい。頁何となく良い句のような気がしたのだが、具体的によく判らない。品子

憲法第九条のことかと思う。他のところは男女同権など世界的になったと思う。しかしこの憲法が出来た当時日本は占領下にあった。だからといって変えろとは言いません。軍備にお金を掛けなかつたからこそ復興できたということもある。しかし今後何かあったときにじつと耐えるだけなのかというのも判らない。そういった色々なことを考える時「憲法がじつと耐えている」という表現がわかる気がする。くんじ

憲法という直ぐ九条に結び付けるが、他の部分でも変えようという意見と、そのままという意見、護憲論、改憲論それぞれに喧しいが、その中で一番耐えているのは憲法かもしれない。「じつと耐えて」と部分に実感がこもっている。一平

憲法という九条。平和をテーマとすると良い句、という括り、イメージは使い古されている気がする。現代で文芸で扱う場合、もっと個々の意見、考え方が前面に出る作りがあってもいい、そんなことを思った。帆波

他人の振りみても我が振りなおらない 千枝子

自分のことだなど思っただけ選んではなかった。ヨモギ  
イロハかるたの格言をひっくり返した作品。倫也  
人の降りを見ている思うことがあるが、自分も同じ  
だなど、句を読んで思いました。和子

作者 同性でも素晴らしい生き方をしている方がいます  
けど、努力はそれなりにしてますけど、もうこれっきり  
と、言うところですか。このことわざ（人の振り見て我が  
降り直せ）を句にして見ました。

長生きへだんだん厚くなるカルテ 利江

お医者さん自体に着いて行くので、病院の診察件を沢山  
持っている。それでその病院ごとにカルテがあるのだな  
と思ひ、実感として選びました。 竜雄

定期的な人間ドックを受けている。長生きを目指してい  
るというのではないが、自然に長生きできればいいなと  
思う。以呂波

カルテもそうだが薬もどんどん増えるので、実感として  
判る。貢

年に数回医者へ行くだけなのにカルテが結構沢山になっ  
ている。カルテの厚さを見て長生きをいたな、という方  
向の作りもあると思う。芳夫

長生きとカルテの厚みという表現が新鮮。品子  
カルテという表現に惹かれました。玉枝

最近腰を痛めたりしたので実感句としていただきました。  
た。

長生きと、カルテの厚さに目を付けたところが上手  
い。 栄子

正

作者 今長生きの時代だが、長生きとは大変なこと、あ  
つちの医者こつちの医者と権りながら改めて思ったこ  
とを詠みました。

湖も私も染めていく夕陽 絵扇

美しい夕陽が目には浮かびました。幸せを感じているので  
しょう。残照が消えるまで見ている。素敵だなど思う。  
和子

全く同感です。耕平

夕日の赤い風景が非常に綺麗に浮かんできます。朔太郎  
作者 仕事の帰りに綺麗な夕陽を見たとき、それで何か  
川柳を作れないだろうかと思ひ、真っ赤に染まった湖を  
見た時に浮かびました。

菓子折りの底札束にまがる筋 竜雄

七・十の形で読ませていただいたが、「まがる筋」という

表現がびったり来ないのと、札束というと封筒が頭に浮  
かぶが、今はどうなのだろう。朔太郎

札束でまがる筋というのは心根のことなのだろうか。一  
平

「まがる筋」が判らなかつた賄賂だと思ひがはつきりし  
なかつた。くんじ

菓子折りの底に札束を入れるのは、今もやっているの  
でしょうか。正

貰ったことがないので判らないが、現実感が無いので  
は。

倫也

作者 水戸黄門の時代も現代もそんなに変わらない。今  
はそんな事はしていないだろうというのがつけ目で、菓  
子折りだと千五百万円くらい入る。「まがる筋」とは建設  
の鉄骨をイメージした。ご意見が多かつたので推敲を重  
ねてみます。

何ですかさあ何でしょう人だから 正

「囲む」という課題のヒントになります。倫也

「人だから」から広がるので面白い。絵扇

クレージーキャッツのギャグを思い出した。団扇

作者 自信作だったのだが、没になった。皆さんのご意  
見をお聞きしたかつた。

誘われてまた認知症聞く講義 和子

実感として面白いと思ひました。睦悟朗

認知症予防教室に通っているので実感として選びまし  
た。栄子

実感として、こういった講義があれば受けて見たいと思  
う。玉枝

作者 認知症の講義によく誘われるので詠んでみまし  
た。

イチローの視力が欲しい川柳眼 くんじ

イチローの眼が欲しいなと作句に思ひます。栄子

作者 下六で楽屋吟のようになつたが、イチロー選手の  
眼の良さを話聞いて、そういう眼で川柳が作れたらな  
と思つた作品です。

ハイテクの時代の波に乗り遅れ 栄子

よくある着想。実際はハイテクの恩恵を被っていること  
の方が多い。利江

作者 実感として作りました。

立志伝 所々の非常識 帆波

鳩山総理の故人献金問題など、どんな人でもあばかれ  
ば多少問題があるのだなと思ひ。睦悟朗  
偉くなる人はどこか非常識なところが在るのだろうか。穿  
ちが効いている。正

立志伝を書くような人は突飛で、常識では考えられない  
ようことをするという印象がある。「所々」は「あちら

こちらの方がよいのでは。以呂波

「非常識」がどういう事を指しているのか伺いたい。品子

過去形として立志伝には脚色が多すぎるといふ事を言いたかったのでは。立志伝の全てが非常識とするのは疑問。

倫也

作者 立志伝とは成功した人について書かれたもの。あくまでも上手くいった人からの視点。読んで真に受けてもエライ目に遭うほうが多い。

久し振り珈琲店で待つ気持ち 品子

久しぶりというのは多分何十年ぶりだと思うので、具体的な数字を入れたほうが良かったのでは。耕平

若い時の気持ちでは。桃葉

作者 喫茶店で人を待っている時に、ふと、昔待ち合わせをしていたときのことを思い出したりして詠みみました。

肩書きは無いが父たる父が好き きみ

「父たる父」がいい表現。品子

父の一言の方が母の言葉より心に残っている。そう思うとこの作品はいいなと感じる。玉枝

「父たる」という表現で厳然とした父親のイメージが浮かぶ。一平

「父たる父」がとても良い。自分の父親のことを思い浮かべた。道雄

自分の父と重ねて鑑賞した。家長としての威厳。絵扇

最近の若い父親にこういう人がいるだろうか。自分の父親のことを思い出すと、父が好きだったことに気付く。こいし

三位争い勝った負けたで話題持ち 順風

この表現だと、去年のこととしても、来年のこととしても通用してしまう。事柄としては季節が限られているものだけに、具体性が少し欲しい。

作者 クライマックスが盛り上がっています。目が離せません。

ちぐはぐに譲り合つてるとうりゃんせ 以呂波

道で譲り合うときに、お互いに避けた方に行ってしまう風景。動きがあつて面白い。帆波

作者 町での風景をみて面白いと思つて詠みました。「とうりゃんせ」は漢字表記の方が良かったのだろうか。

実感がひとつもわかぬ我が米寿 三路  
自分じゃ年齢の実感がわきません。実感がなからめたいとも思わない。気持ちは判る作品。くんじ

作者 老いの仲間の話題は誰も「こんなに長生きするとは？夢にも思つたことがない」

と異口同音に訴えます。

幸さんすみれの声で鳩をおす 道雄

「幸さん」「すみれ」「鳩」が視覚的に目に入り、今話題の女性でもあることから選びました。ヨモギ

何度も読んでいくうちに理解できました。竜雄  
時事として面白い。「鳩をおす」は別の表現と比較してみたい。品子

作者 宝塚の方を存じ上げているので、鳩山婦人の活躍を見ると嬉しい気持ちが湧く。そこで一句詠んでみました。

課題吟 「羽根」 河野桃葉選

「佳作」

天使には羽根貴女には胸がある 帆波

青虫から育てた蝶の遊ぶ庭 和子

年重ね比翼連理に光さす 一平

瞬く間羽根より軽くなる財布 以呂波

ゴキブリが飛んで修羅場の台所 正

老夫婦新天地へと羽根広げ 絵扇

羽根布団夜中に宙を舞っている 三十六

リタイヤへまだ跳ぶ羽根を隠し持つ 品子

嫁ぐ子へ母の想いの羽根布団 玉枝

心配を余所に自由に朱鷺は舞う こいし

「秀」

赤い羽根僕の命が生き続け 品子

羽音たて蚊の一匹に起こされる 玉枝

派遣切り不況に羽根を筆られる 利江

「特選」

羽根が折れ飛べぬ女優は塀の中 竜雄

軸 未熟児の羽化を待つてる六つの目 桃葉

課題吟 「羽根」 南野耕平選

「佳作」

5時までには羽根繕いは終らせる 品子

年重ね比翼連理に光さす 一平

羽根という羽を筆られ朝が来る 帆波

羽根つきのテンポなつかし昭和初期 貢

メロディーがすらすら浮かぶ羽根のペン 芳夫

逆回りしてから止まる扇風機 芳夫

羽根布団軽い男の心地良さ 正

羽根布団夜中に宙を舞っている 三十六

リタイヤへまだ跳ぶ羽根を隠し持つ 品子

盗まれたままになつてる僕の羽根 帆波

「秀」

老夫婦新天地へと羽根広げ 絵扇

飛ぶ時に助走はしないキューピット 団扇

ボーイソプラノの背中に羽根がある 芳夫

「特選」

羽根つけた老女が夢で誘つてる 竜雄

耕平さんより没句評を頂きました。  
まず、没作品の着想を次のように分類いたしました。

赤い羽根、鳥の羽、お金に羽根が生える、昆虫の羽根、時事、羽根とは関係ない方向へ持っていったもの。

その中から、温かい作品、つまり理屈がやんわりしていないものを選びました。

着想に対して突っ込み方が足りないもの、川柳として弱いものは、選出に至りませんでした。

## 五分間吟「雲」 甲野竜雄選

「佳作」

茜雲明日に望みをかけてみる 倫也

雲つかむ話ではない新政府 睦悟朗

雲行きが怪しくなつて黙り込み 栄子

台風が日本の地図を消している 帆波

名月のうさぎと雲が戯れる 芳夫

残照に棚田を映す茜雲 桃葉

ちぎれ雲独り遊びがうまくなる 利江

笠雲が迎えてくれる富士の山 こいし

彩雲が後をつけてるバスの席 和子

秋の空飛行機雲に真つ二つ 倫也

「秀句」

モンゴルの雲竜型に目が慣れる 正

父さんの背中に見えた夏の雲 帆波

エアドーム雲も野球を見たいのに 芳夫

「特選」

ブランコを揺らせば雲が近くなる 利江

まとめ 松橋帆波 以上